人吉の観光の中心である温泉旅館や焼酎、球磨川下り、鮎は、球磨川が清流であってこそ成り立つものです。この球磨川が清流であることを妨げるのが、水の中に含まれるシルトと呼ばれる微細な砂です。国交所は、12 月に川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価準備レポートを公示しました。国交省は、シルトよる水の濁りは、ダム建設前と比べ、変化は小さいと考えられるとしていますが、本当にそうなのでしょうか。

レポートでは、このシルト成分がダム洪水調節地内の平地部に堆積する可能性があることを認める記述があります。しかしダム洪水調節地内の斜面は、木々や草でおおわれていますので、水が引くときにシルト成分がそれらの間に入り込み、平地部ばかりでなく斜面にも堆積するはずだと思います。

私達は、1 月 20 日にカルチャーパレス小ホールで集会を開催しました。その集会では、国土交通省技官として河川行政に取り組んできて、近畿地方整備局の淀川河川事務所長や国交省防災課長などを務めて来られ、ダム建設にかかわってこられたこともある宮本博司さんに講演をしていただきました。宮本さんも、講演の中で流水型ダムである最上小国川ダムでは、林の中にまでシルトが堆積していることを話されました。また河原においても水道（みずみち）のところ以外には、シルトが堆積しているとのことでした。

国交省は、平地部に堆積したシルトを撤去するように言っていますが、このような広範囲に、しかも山の斜面の木々や草木の間、さ

らには河原に堆積したシルトを撤去することはどう考えても不可能です。このようにして堆積したシルトは、雨が降るたびに少しずつ流れ出すことが考えられ、川の濁りが長引いてしまうことが考えられます。

実際に、最上小国川の清流を守る会は、最上小国川ダムによって濁りが増えたことを報告しており、「大雨が降ったのちに濁りはしばらく続き、ダム下流の保京橋では石にべったり白っぽい泥が付き、赤倉温泉の石にもこれほどひどくはありませんが同様の泥がつきました」としています。川辺川の流水型ダムでも、下流での濁りが増えることは明白だと思います。

人吉市は、本年４月１日より行う宿泊割引とアクティビティ等に活用できる割引の支援策としたとして、人吉温泉観光協会への補助金を出すようにしました。その理由を人吉市は、「コロナ禍が収束してきたものの、他地域と比べて観光客が戻っていない状況を打破するために」と説明しています。このように人吉の観光は、大変な状況にあります。他地域に負けずに人吉市に観光客を呼び込むためには、人吉市の魅力である球磨川の清流を守り通す必要があります。令和２年７月豪雨によって大きな被害を受けた人吉市は、経済的にも復興をはたさなければなりません。ダム建設はこれに逆行し、人吉の観光と経済に打撃を与えてしまいます。蒲島知事には、川辺川の流水型ダム建設の推進はやめて、再度ダムに反対していただきたいと思います。